

研究課題：

中心側頭部棘波を示す自然終息性てんかん（SeELCTS）の非典型例と診断変化症例の研究

1. 研究の目的

中心側頭部棘波を示す自然終息性てんかん（SeELCTS）は小児てんかんの6-7%を占め、自然終息性てんかんの中では最も頻度が高いてんかん症候群です。SeELCTS は発症年齢、臨床発作型、特徴的な脳波所見から診断され、生涯発作回数は多くが 10 回未満と発作予後は良好とされています。そのため治療を要さないこともあります、SeELCTS と診断できれば発作予後や治療に関する見通しが説明できます。SeELCTS の診断は発症早期にも可能ですが、最終的な確定診断は矛盾のない臨床経過、発作転帰から判断されます。そのため、発症当初は SeELCTS と考えられても非典型な経過を辿ることや、経過観察中に診断が変化することもあります。今回の研究の目的は、発症早期に SeELCTS と想定された患者の臨床経過や発作予後、診断変化の有無について調査し、非典型例や診断が変化した患者様の特徴を研究することです。

2. 研究の方法

1995 年 1 月から 2010 年 12 月までに出生し、てんかん発症後に埼玉県立小児医療センターで治療、経過観察を行った患者様のなかから、てんかん発症当初 SeELCTS と想定された方を対象とします。対象となる患者の診療録や検査データを後方視的に調査します。

3. 研究期間

2025 年倫理委員会で承認を得られた日から 2028 年 3 月まで。

4. 研究に用いる資料・情報の種類

診療録から、年齢、性別、既往歴、合併症、臨床症状、生理学的検査、画像検査、血液・髄液検査、治療内容、治療による有害事象、発作転帰の情報を調べまとめます。

5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

この研究で得られた結果は、医学雑誌などに公表されることがあります、患者様の名前など個人情報は一切分からないようにしますので、プライバシーは守られます。また、この研究で得られたデータが本研究の目的以外に使用されることはありません。

6. 研究組織

研究機関：地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター

研究責任者：神経科 医長 平田 佑子

分担研究者：神経科 科長 菊池 健二郎

保健発達部 医長 小一原 玲子

神経科 医長 松浦 隆樹

7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申出下さい。

また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2025年5月30日までに下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構

埼玉県立小児医療センター

医事担当（代表 048-601-2200）